

石川家資料について

石川家資料は、目録前半の 71 点が平成 7 年に、さらに後半の 391 点（2）、43 点（3）が平成 18 年に当館に寄贈されたものである。

石川家は天正時代に松本城主であった石川数正の支族の一流であったといわれ、石川氏が大分県佐伯に改易となった後、帰農して竹入の姓を名乗り、上伊那郷今村辺に住していたと伝えられている。高遠藩の記録では、明和年代高遠藩に召し抱えられ、以後三代にわたり、明治の廃藩に至るまで、御山方、御薪方、御蔵方、郷方物書、地方代官などの諸御役を勤めた。明治以後は、高遠町内で絹織物工場などを経営し、近在の女性たちに働き場を提供してしたようである。

特に石川維徳（重左衛門、字・小温、この代より石川の姓に戻る）は、和算、天文、暦学者として名高く、『窮源算法』『算学階梯』など関流和算の書に工夫・改訂を加えて、この地方に多くの優秀な門人を育てた。さらに、測量の技術にも優れ、藩内の地図御用係りを命ぜられ、自ら測量機を考案して、当時としては非常に正確な地図を作製したといわれる。

この資料の中にも、多数の絵図面類があり、『高遠城図』『信州高遠古図』『小川町藩邸之図』などは高遠にとって非常に貴重な物であり、領内各村々の小絵図や、中山道への助郷関係の絵図面なども珍しく、興味深いものである。勿論、和算、天文、暦学関係の諸資料も多く、これらは今後の解明が待たれるところである。

また、江戸時代の家塾で使われたと思われる、『往来物』を始めとする、多くの手習い用手本類もあり、句集その他多数の写本もあって、石川家の人々の趣味の広さを伺わされるところである。

平成 22 年 2 月 高遠町図書館